雪が積もった日の昔ばなし

今坂柳二

皆さんも覚えとるべえが、昭和二十年は雪がよく降ったよなあ。そんな中で、おれら国民学校高等科の二年生にも遂に勤労動員令が来ちまった。昭和十九年十月三日に高等科女子に発令され、トヨオカ町のH社をはじめ、村内のN社、I社に出社。年が明けた二月十七日には、いよいよおらたち男子も教科書にサヨナラして工場に入ることになっちまったんだ。その会社は、ええと…そうそう、ヤマトクロスちゅうんだ。縁とは不思議なもんで、何時か話したことがある、久星ちゅう酒を造る会社の跡にできた工場だったんさ。

当時の小学校、いや昭和二十年には小学校じゃなくて「国民学校」に変わってたけど、おらの相棒はズーと同じでウィルバー*なんだ。ということは相棒のおらあ、さし当たりモー*ビルってところだったんかな。まあ、おらなんてどうでもいいがね。あにしろ八十年もの昔の話だ、ちっとは行き違いもある、忘れたところもある、そんなかでよく覚えてんなあ、雪虫がいっぱい飛んでて雪がよく積もってたってことさ。

家から工場まで雪道だったら、どうなると思うや、ん？ ゴム長なんて何処でも売ってるお店は零(ぜろ)でな、靴底は剥がれてベロベロ。三キロか四キロの通学路が雪道とあれば、霜焼け、アカギレの行列じゃ。さてこちらはモービル、ウィルバーを仇名にいただく二人、その辺に放り出してある紙くずを集めてズック靴に詰め込んだんだよ。母ちゃんが濡れたズック靴に古新聞を丸めて詰めてくれたみてえにな。まさか、この紙くずがそんなに大切なものなんて神さまでも、分からんよねえ。

紙は何で出来てるかちゅうと、秩父の山陰で育ったコンニャク玉と、小川町の岸辺から刈り取ってきたコーゾを搗(つ)き合わせ捏(こ)ね合わせてつくるんだからなあ。ところが、なんだよ。この紙をおらたちが貼り合わせ乾燥して毬(まり)にし、ガスを入れて空に放すと、どういうことになるか。

日本の国から放すと偏西風に乗ってアメリカの上空に届くんだってさ。終戦後に知ったけど、日本の新兵器「風船爆弾」知らんうちに造っていたんだよ。おらたちがこの手でな。知らんこととはいえ、おっそろしいことしてたもんさ。

註 ＊＝飛行機の発明者、ライト兄弟の名前からとった仇名

●作者からのお願い　昔話の採集を始めて二〇〇話を越えましたが、そろそろ材料が見つからなくなりました。読者の方で何かご存じの方がおられましたらご一報ください。個人的な話でも、少々あやしい話でも構いません。お聞きした上で判断させていただきます。昔話の将来への伝承のためご協力をお願いします。

連絡先：今坂柳二（04-2953-1954）

いまさか りゅうじ
狭山市笹井在住。 二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。
かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」 以下十冊発行。

編集後記

猛暑と、台風、大雨の被害等、災害の多い今年の夏。会報チームが「会報委員会」になりましたが、未だお手伝い下さる方が増えていません。待ってますのでよろしく。

文団連の活動拠点でもある富士見集会所が工事休館に入りました。私の民謡教室は幸い隣の自治会館を借りられる事になり、安心です。

ロミオとジュリエットの舞台稽古が始まりました。注目していきたい。

（髙沢正夫）